

日時：平成29年(2017年)9月1日(金) 14:00～16:40

場所：市役所 3-3 会議室

欠席委員：なし

傍聴希望者：3名

委員長	<p>開会</p> <p>では、第5回宝塚市行政評価委員会を始める。</p>
委員長	<p>傍聴希望者の確認</p> <p>傍聴希望者はあるか。</p>
事務局	<p>本日の傍聴希望者は3名である。</p> <p><傍聴希望者入室></p>
委員長	<p>議題1 行政評価委員会のまとめ等について</p> <p>では、議題1「行政評価委員会のまとめ等について」の審議を始める。前回の委員会で意見をいただいた第3回行政評価委員会の議事録及びまとめの修正版について確認する。</p>
委員	<p><第3回行政評価委員会の議事録及びまとめについて確認></p>
委員長	<p>では次に、第4回行政評価委員会の議事録について、各委員修正等ないか確認する。</p>
委員	<p><第4回行政評価委員会の議事録について修正等意見></p>
委員長	<p>では次に、第4回行政評価委員会のまとめについて、各委員修正等ないか確認する。</p>
委員	<p><第4回行政評価委員会のまとめについて修正等意見></p>
委員長	<p>議題2 平成28年度の施策評価について</p> <p>では、議題2「平成28年度の施策評価について」に移る。</p> <p>本日の審議対象施策は、「商業・サービス業・工業」「農業」「雇用・勤労者福祉」の3施策である。事務局より施策展開の方針ごとに、要点のみを簡潔に説明いただき、その後、質疑という形で進める。</p> <p><各施策審議></p>

<p>【基本目標】観光・文化・産業 【施策】商業・サービス業・工業 【施策展開の方針】『1 起業家、やる気のある事業者に対する支援を強化します』</p>	
委員	<p>利子補給では起業家への支援効果は薄いと考える。オフィスを構える際の支援や販路拡大へのサポート等を手厚くし、企業を育てる必要がある。宝塚市では製造業の企業が減少し、法人市民税も減少しており、現状を危惧している。</p>
産業振興室長	<p>設備投資や販路拡大の支援事業も行っている。年間数件であるが、審査会で審査、認定し、補助している。また、オフィスを構える際の支援として、空き店舗への出店に係る補助も審査会を開いた上で行っている。利子補給についても、支援における重要な取組と認識しており、継続していく。</p>
委員長	<p>起業家への支援をもう少し手厚くする必要がある。</p>
委員	<p>宝塚 NPO センターでは、自宅住所を事業所として公開することに抵抗がある起業家の女性等に住所貸しをしている。支援策の一つとしてインキュベーション施設の提供はどうか。</p>
委員	<p>起業家に対する研修や相談はよいが、利子補給について、起業家の資金を公金で支援するのはどうか。自らリスクを負って起業するものである。会社が破産した場合の対応は。</p>
産業振興室長	<p>信用保証協会に加入しており、そこが負担することになる。起業家のリスクは自らの責任としてついて回るものと理解している。</p>
委員長	<p>自己評価では、現在の取組のさらなる PR に取り組むとしているが、施策の推進に向け、インキュベーション施設の提供や事業者に寄り添ったコーチングを行う等、他都市の取組も参考にしながら、新たな試みを検討し取り組む必要がある。</p>
委員	<p>地方創生加速化交付金を活用し、ソーシャルビジネス創業支援事業を実施しているが、交付金には期限がある。交付金終了後のことも考慮し、新たな事業展開の検討をするべきである。</p>
委員長	<p>評価表に、商工会議所や NPO 法人等と連携して、高齢者向けいきがいビジネスの支援を進めるとあるが、どのような取組をしているのか。</p>
委員	<p>兵庫県の補助を受けて宝塚 NPO センターが運営している、生きがいしごとサポートセンター阪神北との連携による支援を指しているのではないのか。</p>
産業振興室長	<p>そのとおりである。</p>

<p>【基本目標】 観光・文化・産業 【施策】 商業・サービス業・工業 【施策展開の方針】 『2 商店街の活性化を図ります』</p>	
委員長	<p>この細施策では、商工振興事業（再掲）のみがぶら下がっており、その中に商店街単位と店舗単位の活性化への取組がある。細施策の内容に照らせば、商店街を単位とした取組を1つの事務事業として整理した方がよい。</p>
産業振興室長	<p>市全体の商店街の活性化のために実施している宝塚バル等に補助をしている。広範囲を対象とした支援に力点を置きたいと考えている。</p>
委員長	<p>商店街の活性化と商店街の空き店舗の活用は連携して取り組んでいるか。</p>
産業振興室長	<p>空き店舗活用への補助は、事業の中身の精査による店舗活用ではなく、空き店舗割合の改善を主たる目的として実施している。</p>
委員長	<p>商店街ごとの総合的な利用や自主的な再生に向けた取組を支援するためのスキームが必要である。NPO法人や学生等に利用してもらい、居場所づくりや休憩所としての活用等、多様な使われ方がなされることで商店街全体の活性化につながる。</p>
委員	<p>商店の方々には意気込みを持って活性化に取り組み、市は人の流れを生むための仕組み作りに取り組む必要がある。</p>
委員	<p>宝塚市はサービス業が主体であり、小売業での消費額が大きいといった状況を踏まえた上で、市主導による活性化ではなく、商店街と外部の方々による協働の取組がなされるような仕組み作りが重要である。</p>
委員	<p>他都市では、若者が主体となって地域を巻き込み、商店街を盛り上げている事例がある。宝塚では、駅周辺の建物の中に商店が入っている場所も多く、そのような場所も含め、若者等が自由に使えるような仕組みが活性化につながるのではないか。</p>
委員長	<p>産業振興室だけでは対応が難しいが、市が仕組みを作り、商店街が外部の力も借りながら主体的に活性化策に取り組めるようにするべきである。</p>
委員	<p>個々の商店への支援よりも、他の部署と連携しながら、商店街を含めた地域づくりへの支援が求められている。</p>
委員長	<p>まちづくりという総合的な視点から活性化に取り組む先進事例も散見される。指摘内容を踏まえ、事務事業の整理を行い、活性化に取り組んでもらいたい。</p>

<p>【基本目標】観光・文化・産業 【施策】商業・サービス業・工業 【施策展開の方針】『3 地場商工業の活性化を図ります』</p>	
委員	産業振興事業（再掲）では、平成26年度に1,000万円余りのコストをかけて産業振興基本戦略に係る提言書をまとめているが、平成27、28年度はコストが0である。事業に動きがないのはなぜか。
産業振興室長	提言書の内容は産業振興に係る各事業で活用している。提言書自体の進捗管理等はできていない。
委員長	PDCA サイクルへの意識は必要であり、時期を見て提言内容に係る評価を行ってはどうか。
委員	新名神高速道路利活用等地域活性化推進事業（再掲）で、地方創生加速化交付金を活用し、ガイドマップやプロモーションビデオの作成等に取り組んでいるが、その効果や次年度以降の取組は。
北部地域調整担当次長	新名神高速道路の供用開始は平成28年度末予定であったが、1年遅れたため、作成したガイドマップ等は日の目を見ていない。今年度末の供用開始に向け、作成物の活用等による地域活性化に向けた準備を進めている。平成29、30年度は、事業予算を縮小しているが、地方創生推進交付金を活用し、地域ブランドの販売や定着促進等に取り組む。
委員	すぐに活用が可能なものは、シティプロモーションで活用していくべきである。

<p>【基本目標】観光・文化・産業 【施策】商業・サービス業・工業 【施策展開の方針】『4 地域資源を生かして宝塚ブランドの創造・発信に取り組みます』</p>	
委員	宝塚ブランド発信事業の「モノ・コト・バ宝塚」は、色々と一緒に取り込んでブランディングしており、現状は尻すぼみとなっている。ブランディングにおける戦略としては良くないのではないか。ブランディングは必要だが、中身を見直す必要がある。
委員	西谷産の酒米を使った日本酒「乙女の舞」は、精米歩合 50%で、大吟醸として販売している。精米歩合を下げれば下げるほどおいしいため、宝塚の魅力の1つとして発信するのであれば、40%程度までは下げた方が良い。
委員長	3年前の前の外部評価でも指摘したが、「モノ・コト・バ宝塚」が、より価値の高いものとなるよう選定手法の検討を行う必要がある。また、前回、「モノ・コト・バ宝塚」とシティプロモーションサイトの融合を指摘したが、できているか。
産業振興室長	シティプロモーションサイトに掲載し、連携を図っている。
委員長	指摘に対応されており、評価できる。ブランディングや発信事業に取り組んでいるが、その効果が実感できるよう一層の努力が必要である。

<p>【基本目標】観光・文化・産業</p> <p>【施策】農業</p> <p>【施策展開の方針】『1 農産物の生産量増加と消費拡大を図ります』</p>	
委員長	3年前の前の外部評価で、耕作放棄地増加への対応が必要としたが、その後の取組は。
産業振興室長	農業委員会が農地パトロールを実施し、所有者に草刈り等の管理を行うよう指導している。耕作放棄地は平成28年12月では1.47haであり、3年前は4.1haであった。農作物が作られているかは不明だが、管理面積として捉えると、放棄地では減っている。
委員長	同様に3年前の外部評価で、都市近郊農地という特徴を生かし、新規就農者確保への取組が必要としたが、平成28年度では4人の新規に就農しており、努力している。
委員	上佐曾利地区のダリア園は農地に入って花を見るが、観光的な視点から、歩きやすいように道を整備し、庭園のようにできないか。
産業振興室長	上佐曾利地区は、ダリアの球根を生産して出荷している。農地を痩せさせないために場所を毎年移して生産しているため、庭園のように整備するのは難しい。
委員	花の販売も行ってはどうか。
産業振興室長	花の販売目的で生産している方もいる。球根作りの生産者に、花の販売も働きかけているが、担い手不足もあり、球根と花の販売両方を行うには至っていない。
委員	自己評価で、市内の親子を対象とした野菜収穫等の日帰りバスツアーは好評と評価している。総合計画では主な取組として、南部消費者と北部生産者を結ぶネットワークの強化を掲げており、事業費も少額であるため、拡大してもよいのではないか。市単独ではなく、民間旅行会社とタイアップによる実施も検討してはどうか。
委員	西谷には、素晴らしい自然やダリア、牡丹、農作物があり、また、西谷ふれあい夢プラザ、県の施設の西谷の森公園等、多様な資源があるが、賑わいをあまり感じない。地元と協力し、多様な資源を生かした地域活性化に取り組む必要がある。

<p>【基本目標】観光・文化・産業 【施策】農業 【施策展開の方針】『2 花き・植木産業の振興を図ります』</p>	
委員	<p>自己評価で、事務事業構成の適正性を、推進に向けて対応策が必要と評価し、記載内容では、事業の枠組みは変えずに、事業のテコ入れを行うとしているが、現在の取組が適正とした上で、現在の事業スキームの見直し等により細施策の充実を図るとの評価でよいのではないか。</p>
委員	<p>総合計画の主な取組に、あいあいパークを拠点として花き・植木産業の振興を図るとある。現在までの事業自体は良いが、これまでの事業の進捗状況等を踏まえ、内容に沿った指標の設定や事務事業の構成について、抜本的な見直しを検討してはどうか。</p>
委員	<p>あいあいパークは全国的に見てもあまりない、良い施設である。施設利用者数は約84万人だが、パン屋の利用客数も入っている。あいあいパーク自体の利用者の数や目的等の実態を把握、分析し、さらなる施設の活用策を検討すべきである。市花のすみれや牡丹、ダリアを関連付けて事業を展開する等、資源を生かしたさらなる取組が必要である。</p>
委員長	<p>シティプロモーションやブランディングとの連携強化を図り、新たな事業に取り組んではどうか。</p>

<p>【基本目標】観光・文化・産業 【施策】農業 【施策展開の方針】『3 市民が身近に農業に触れることができる仕組みづくりを推進します』</p>	
委員長	市民農園の運営、拡充や収穫体験バスツアー等を実施しており、細施策の内容に照らせば、順調に取り組んでいるように思える。
委員	収穫体験等の日帰りバスツアーの対象者は。
産業振興室長	市内親子が対象である。市内で作られた安全でおいしい農作物の存在を知ってもらい、市内店舗で販売している西谷産農作物を買ってもらえるよう取り組んでいる。
委員	これまで他の自治体でも市民農園事業を行い、取組として定着しているが、民間でも同様の事業が行われている。今後も市が拡充していく必要はあるのか。
産業振興室長	市街地の団塊の世代を中心に、市民農園のニーズは高い。場所によってはかなりの倍率で抽選を行っている。現状としては、民間だけでは全てのニーズに応えることができない。将来的には民間による取組になればよいと考えている。
委員長	そうであれば、民間への事業移行に係る取組を実施するべきである。
委員	山本地区に、自分たちで土地を借りて市民農園をして、地域イベントも開催している団体がある。耕作放棄地への対応やエイジフレンドリーシティへの取組の視点からも、民間におけるこのような事例が広がればよい。
委員	市が農地の所有者と市民農園をしたい人をマッチングしてはどうか。
産業振興室長	市民農園事業は、広報等により、そのように取り組んでいる。
委員長	細施策や事務事業に係る取組は、概ね順調と言えるが、市民農園事業は平成3年の事業開始から長年が経過し、同様の事業が民間でも広がりを見せている状況を踏まえ、今後は、役割分担を見直し、民間での市民農園の広がりのための取組を行ってはどうか。

<p>【基本目標】観光・文化・産業 【施策】雇用・勤労者福祉 【施策展開の方針】『1 若年者の就労を支援します』</p>	
委員長	最近の若年者の就労状況は比較的良いと思うが、自己評価では進行状況は順調ではないとし、就職に悩みや課題を抱える方への支援策が主な取組内容となっている。
委員	就職への支援を必要とする就職への悩みや課題を抱えた方はたくさんおり、最近では、発達障がいがある方等も含めた対応が必要となっている。
委員長	辛めな評価との印象を受ける。現在の支援策や運営体制に大きな問題がなければ、業務レベルでの改善に取り組んでもらいたい。
委員	宝塚市労働施策推進計画に、早期離職が課題との内容があるが、その対応策が施策評価表、事務事業評価表には見当たらない。就職先で継続して働くための支援策が必要ではないか。
産業振興室長	企業に対して、早期離職に係る対応への働きかけが必要と考えており、また、市も若者の早期離職の状況が改善されるよう取組が必要と認識している。
委員	総合評価の記載内容に、「…若者サポートステーションの活用…」とあるが、「活用」ではなく、「協働」としてもらいたい。
産業振興室長	修正する。
委員長	3年前の前の外部評価で、ワークサポート宝塚の事業の必要性や設置場所について審議した。事業自体は必要とのことだが、全事務事業見直しを行っている中、費用対効果を考え、場所を移して家賃の圧縮を図る等、経費節減の検討をしてはどうか。直ちに対応するのは難しいと思うが、検討の余地はあると考える。
産業振興室長	立地的には便利で利用してもらいやすいが、最近はスマートフォンを利用して情報を得ることも可能であり、検討が必要な時期にきている。

<p>【基本目標】観光・文化・産業 【施策】雇用・勤労者福祉 【施策展開の方針】『2 高齢者の就業機会の拡充に努めます』</p>	
委員長	<p>高齢者のアルバイト等における不当な扱いについて相談する窓口はあるか。</p>
商工勤労課長	<p>市民相談課で労働問題相談を毎月開催しており、担当課と情報共有を行い、今後の施策の参考としている。高齢者の職場での不当な扱い等に係る頻繁な相談についての報告は受けていない。</p>
委員	<p>宝塚市立自転車等駐輪場等の管理運営は、これまでシルバー人材センターが指定管理者として事業を行っていたが、今年度より他の民間業者に変更となった。指定管理制度の趣旨から仕方がなく、また、市の他の業務をシルバー人材センターに依頼している状況もあるが、地域雇用等も含めて総合的に判断し、シルバー人材センターを守るための方策も検討する必要がある。</p>
委員	<p>シルバー人材センターが高年齢者雇用安定法で規定されて以後、年齢構成や人口動態が当時から状況は変わっており、高齢者雇用の機会の確保策は、シルバー人材センターの他にも選択肢がある。シルバー人材センターだけではなく、高齢者の雇用機会に係る他の支援策にも取り組み、指標を設定する等、評価表にも反映すべきである。</p>

<p>【基本目標】観光・文化・産業</p> <p>【施策】雇用・勤労者福祉</p> <p>【施策展開の方針】『3 働く意欲を持つすべての人の雇用の促進と就労環境の改善に努めます』</p>	
委員長	ワークライフバランスの確保やワークシェアの促進について、市ができることは啓発や情報発信等に限られると思うが、具体的にどのように取り組んでいるか。
産業振興室長	市内の主だった企業に参加いただいている雇用促進連絡協議会において、勉強会の開催や情報提供を行っている。
委員長	総合計画に掲げる以上は、市として実効性のある事業に取り組む必要があるが、できることは限られるため、次期総合計画では、市にできることを整理した上で施策内容や設定する指標について検討する必要がある。
委員	労働施策推進計画では、ダイバーシティの推進を掲げ、具体的な取組を記載しているが、事務事業評価表に記載がないため、実施している事業を示していく必要がある。

委員長

閉会

では、本日の審議を終了する。事務局より、次回の委員会の日時、審議内容等について、説明をお願いします。

事務局

次回（第6回）の委員会は9月15日（金）15：00～17：30、会場は3-3会議室である。次回は、今年度の行政評価委員会のまとめ案等について審議を行う。